

III

がんサポートグループの 運営において生じる課題



がんサポートグループを運営していくうえでの最大の課題は、適切な場所の確保です。ほとんどの施設では、会議室やデイルームを会場とする場合が多いと思いますが、サポートグループの大きさや環境に配慮した会場を確保するように努めましょう。また決まった場所を定期的に確保することは、参加者の安心につながります。一方で院内で開催されることにより、話しづらい内容があることにも配慮が必要です。その場合、医療従事者による院外の講演会や地域における特定のがんの患者会やサポートグループの情報などを提供できるよう、備えることが助けになります。

がんサポートグループが最も力を発揮するのは、ピア・サポーターを含めて多様な参加者が集まることです。がんの種類や病期を限定しないサポートグループでは、心の問題や医療従事者との付き合い方、治療と仕事との両立の仕方をはじめ、がんと共に暮らす生活の問題などを話し合うことが可能ですが、小児がんやAYA世代特有の問題、同じがんの種類の実験者に専門的な治療や実際の抗がん剤を使用した体験・対処法を聞きたいなどのニーズには応えられないことがあります。そのためには、絶えず参加者を集める活動をしておく必要があります。また、施設内で協力者を募集したり、地域の患者団体などに協力を依頼したり、できるだけ多くのピア・サポーターの協力を得ておく必要があります。

責任の明確化にもつながる内容ですが、治療・療養、病院の具体的な選択や個別の状況に応じた制度活用など、がんサポートグループでは解決が難しい悩みを抱えた参加者には、終了後のがん相談支援センターなど総合的な相談窓口で個別の相談支援が実施できるようにしておきます。また、課題に合わせて適切なリソースに橋渡しをすることは経験の少ないピア・サポーターにとっては負担の大きなことであり、自施設内または地域の適切なリソースへの橋渡しの窓口としてのがん相談支援センターの存在もがんサポートグループの安定的な運営の要素となり得ます。

実際に、継続してがんサポートグループを運営していくためには、医療従事者の中でがんサポートグループへの協力者を多く得ておくこ

とが必要です。施設内のがんサポートグループに無関心な医療従事者の存在も心にとどめておかななくてはなりません。特に、場所や資金の確保、また医療従事者・病院職員が業務としてサポートグループに携わるにあたって、病院の管理者に理解を得ることは不可欠です。ピア・サポートの推進が「がん対策推進基本計画」によって位置づけられたことから、サポートプログラムの運営はがん診療連携拠点病院において一定の理解を得られ始めてはいるものの、サポートグループの維持・発展のためには何らかのアプローチを考える必要があります。恒常的にサポートグループの意義を発信したり、個別の話し合いの機会をもつことだけでなく、サポートグループでの参加者の声などを主治医や担当看護師などに伝えたり、ニューズレターなどを通してフィードバックすることで、少しずつ関心がもてるよう働きかけることも方法のひとつになります。

A

がん患者と家族をサポートする取り組みを適切に運営するためのフローチャート

本手引きのI章およびII章で解説した内容をふまえて、がん患者と家族をサポートする取り組みを適切に運営するためのフローチャートを示します(図1)。がんサポートグループを担当する医療従事者は、自施設の取り組みの目的や運営や内容を見直し、十分なサポートを提供できているか、その運営方法を検討しましょう。

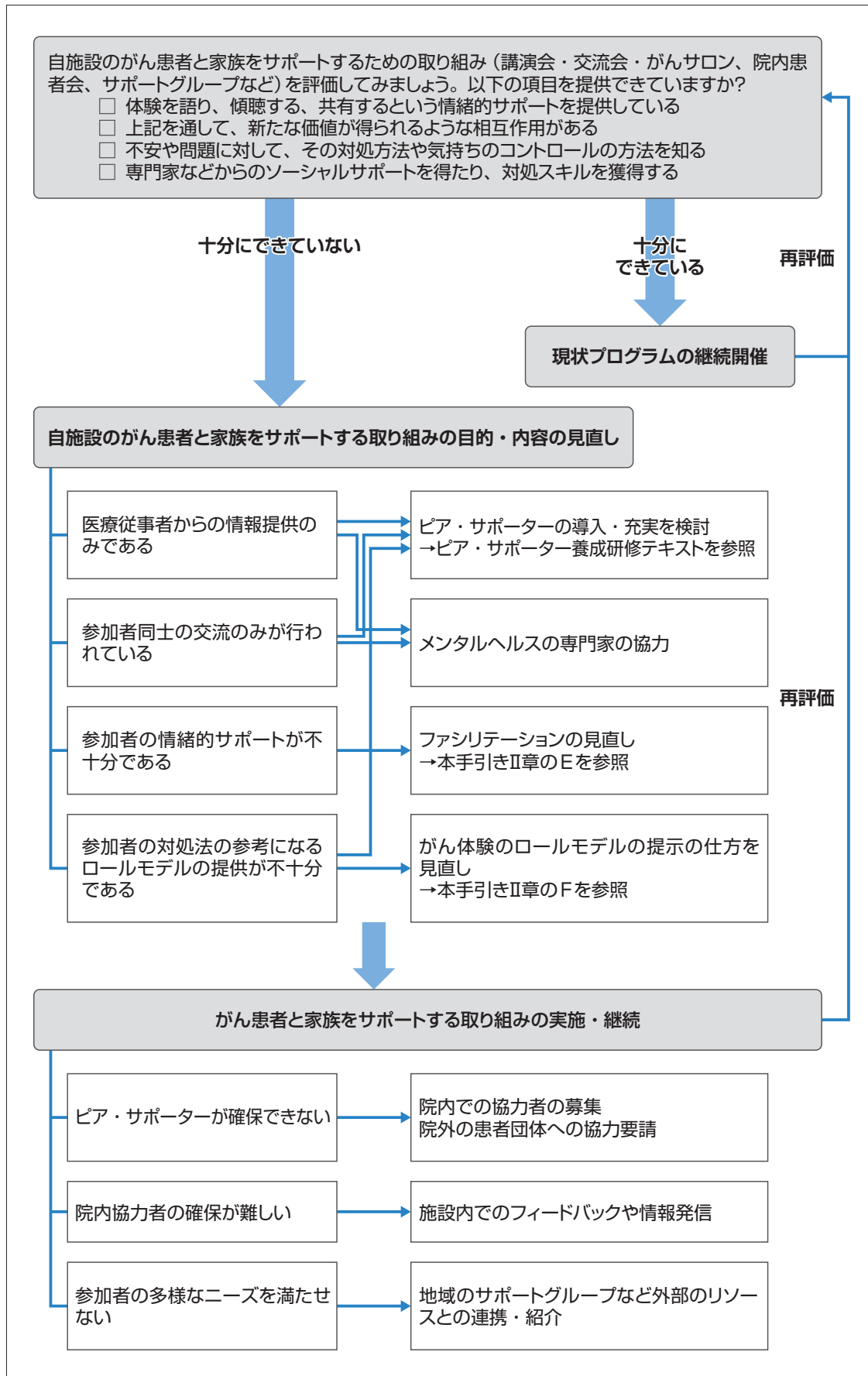


図1 がん患者と家族をサポートする取り組みを適切に運営するためのフローチャート